

技術開発事例

共同研究

北茨城産蛙目粘土による耐熱陶器の開発

【共同研究先】 北茨城市商工会

【目的】

北茨城市で産出する蛙目粘土は、鉄分を有し耐火度が高く可塑性が低いという特徴があるが、現在あまり活用されていない。これらの特徴を活かした耐熱陶器の開発を行ない、現在北茨城市商工会が行なっている町おこし事業「天心焼」の製品多様化を支援しました。

【内容】

商品化のためにベースとなる素地・化粧・釉薬の開発を行ない、北茨城市商工会と共同で13窯元に試作協力を得た。これらの試作品を東京の見本市に展示して一般バイヤーからの意見をいただいたほか、料理家・旅館飲食業会の方々と交えた意見交換会「調理検証会」を行なった。

【成果】

北茨城産蛙目粘土を使用した耐熱陶器は性能が高く、一般に流通しているものに比べ使用頻度の多い業務用に向いている事が分かった。窯元・バイヤー・料理家・旅館飲食業からの注目度も高いが、原料供給体制やPL法など安全管理体制の確立、ブランドとしての統一体制などの課題を残した。



見本市（東京インターナショナル・ギフトショー）



13窯元試作品を用いた調理検証会

基礎となった事業

平成19年度 オンリーワン技術開発支援事業（共同研究）

担当部門

窯業指導所 工芸技術部門 主任 常世田 茂 tel : 0296-72-0316